

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度 第2回文化芸術推進審議会
開 催 日 時	令和4年12月19日(月) 午前10時00分から 午前11時45分まで
開 催 場 所	吉川市役所 3階305会議室
出席委員(者)氏名	高田明充委員、廣瀬正子委員、渡辺弘委員、小松弥生委員
欠席委員(者)氏名	金澤美智子委員
担当課職員職氏名	教育部 中村詠子部長 生涯学習課 岩上勉課長、山崎弘輝主査
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<p>《会議次第》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 文化芸術推進基本計画の策定について 5 その他 6 閉会 <p>《公開又は非公開の別》</p> <p>公開</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	<p>次第</p> <p>吉川市文化芸術推進基本計画(案)</p> <p>参考資料 文化芸術推進計画(案) 主な変更点</p>
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録

会議録確認指定者	渡辺弘委員、小松弥生委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ 高田会長、中村教育部長挨拶</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 議事 会議録署名委員の指名について、渡辺委員、小松委員を指名。</p>
高田会長	<p>(1) 文化芸術推進基本計画の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を求める。 ・資料に基づき説明。 ・きれいにまとめていただいた。文化芸術に関する取組の市民満足度調査において、パーセンテージがあがっているが、どういったことに満足しているか細かいところまで聞けるものなのか。 ・自由回答欄はあるが、事務局に回ってくるものは、満足していない方の自由記入内容である。 ・聞き方としては「文化芸術に触れ合う機会に対する満足度」として「文化芸術に対する市の取り組みについてどのように感じますか。」という質問で、「満足」「どちらかと言えば満足」の割合を指標としている。なお、それ以降は「どちらかと言えば不満」「不満」と続いていく。重複回答可として、不満であると回答した方が考える必要な取り組みは、7割の方が「有料でも、行きたいと思えるようなコンサートや展覧会などを開催する」、次いで4割の方が「文化芸術に関するイベント情報などを積極的に提供する」と回答している。この結果も踏まえ、公共施設利用者アンケートでは主に情報発信についての状況確認を行った。 ・それがこの計画の随所に反映されていると。これだけ上昇しているので、なぜ満足かを知ることができればと思ったが、逆に言うと、そのようなイベントが沢山行われるようになったとか、情報が以前よりも出される
事務局	
事務局	
小松委員	

事務局	<p>ようになったとすることができるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 可能性はあると考える。市民ニーズが高いところなので、充足されてきた結果として満足度が高まったとも考えられる。
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> 吉川市は人口が増加している自治体、増えている層というのは若い人なのか、そういった資料はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 手元に細かな資料はないが、いわゆる働き世代の人たちが増えており、吉川美南駅周辺の開発の結果として定住者が増えている。
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代の方々は、吉川市で働くというよりも、吉川市に家を買って、武蔵野線に乗り市外へ働きに行っているという認識で良いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> そのように考える。ベッドタウン化しているとも言える。
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> そのような人たちのニーズをどのように受け止めるか。ずっと昔から吉川市にいる人たちと、新しく入ってきた人たちとの意識の差はあると考える。新しく住んでくれた人たちがずっと定着してくれると良いが、定着するために何をするかということを考える必要があるように思う。私も色々なところに転勤して、引っ越しをして、新しい所に住んだ経験がある。私が自治体等に勤めていた時はこういった計画を一生懸命策定していたが、自分が住んでいるところに関わろうとしたのは、主に子どもが小さかったころである。子どもが大きくなるにつれ、外に出て行ってしまい、関わっていた場所から離れてしまう。子どもがいない方もいるし、そういった方たちをどう取り込んでいくか、悩ましいと思う。 イベント実施の要望が多いことから、計画全体を通してイベントに関する記載が多いと考えているが、イベントは一過性のものである。それが積み重なればと思うが、イベントはその時は楽しいが後に残らない。イベントよりも、継続して、皆が関われるような活動、そういったことを行う方が、市全体の活性化に繋がるのではないか。その記述が全体通して若干薄いと感じる。求められていないのなら良いとも思うが、委員の皆さんはどのように考えるか。
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果では文化芸術に興味がある人は20代と40代が少ないと。小松委員が言われた通り、生活の拠点はあるが、市外に仕事に行ってしまう、ほとんど地元に関わらないということの表れと考える。ある程度年を取ってきて、余裕が出てきたときに、色々なアンテナにひっかかるもの。そこをどう見つけていくかが課題と考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 人口が増えている理由が駅前の開発である。若い世代が子どもを入学させるタイミングで来る家が多いと感じる。学校教育の中でも、子どもたちに教えていきたいと思っているのは、吉川市への愛着心、そういう気持ちを育てていきたい。なまぎの学習などをしながら、吉川市の文化芸

<p>小松委員</p>	<p>術に触れ、郷土愛を育んでいくということを行っている。また市では、シティプロモーションに関する計画を作っているが、観光的なものや外から人を呼び込むというよりは、自分たちが住む街を愛し、郷土愛的な誇りを持てるまちづくりをしていこうということが一番の念頭に置いている。いずれ人口が減少してくる可能性もあるが、吉川市に住んでいる人が文化に触れながら、郷土を愛するという気持ちを作っていくことを一番に考えている。小松委員のご意見のとおり、子どもが小さいうちは関わっているが、大人になったらなかなか関われないということもあるので、市の全体的な方向性も含めたうえで、この計画がその一部となってくれば良いと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画案の中では、文化財に関する記載の部分でそういった要素を盛り込んでおり、学校との連携も計画の中に含めている。 ・学校教育を巻き込むというのはとても良い、ぜひ巻き込んでいただきたい。埼玉県の小川町では「おがわ学」ということに取り組んでおり、県内の県立高校の再編にあたり、地域がどうやって地域の高校を支えるかということについて考えてもらった。そして学校側にも地域に何ができるかを同じように考えてもらった。高校生たちが、小川町の課題、例えば高齢化や空き家の増加、そういう地域の課題を高校生自身がきちんと取り上げて、その課題をどうしたら解決できるかを、提案に留まらずまちにも赴き、考える取組を行った。そして小中高と通じて、小川町はどういうまちかという教材を作り、それぞれの学校で、子どもたちがまちに対して色々な提案をして、活気が出てきた。その変化として、高校生の活力が変わってきており、以前は「和綴じの本ができて良かった」だけだったが、そこから離れて、有機農法で作った野菜で、このようなメニューができるから、実際にレストランでとりあげてもらい、空き家対策にはこうしたら良い、結婚して若い人に来てもらうにはこうした方が良いなどを提案し、町長の前で発表もする。このように、教材を作って教えるだけではなく、子どもたちに関わらせることをやると、誇りに思う、自分事として考えられるのではないのかと思う。そういうことにも取り組むと良いのではないかと考える。 ・イベントについては、アンケートの結果を見るに、有料でも良いということなので、人気のあるアーティストのコンサートとか、そういう意味なのか。
<p>渡辺副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのように思う。どこでもそのような意見は出てくるだろう。ただし、実現は難しく、県内ではスーパーアリーナのように、ほとんどが大きいところになってしまう。

<p>小松委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そこをどう対応するか。誰でもそう希望するので、それは一度置いておき、最後の方のアンケートで、情報発信のことを聞いており、分析して計画に入れているが、この情報発信については、どのような媒体を見て文化活動を行っているか、見に来ているかについては、内容と年齢層によっても違って来る。これはその違いに、あまり配慮した形にはなっていない点が気になるところ。たとえば、日本画の展覧会と、現代アートの展覧会では、見に来た方の年齢層が全く違う。現代アートでは、ウェブ情報と、実際に来た人が自ら情報発信してくれる。日本画の場合は、新聞とか日曜美術館を見たとかいうことが多い。中身と、誰に対してこのイベントをやるかを見極めて、適切な方法を実施するという書き方にした方が良いでしょう。 ・ところで19頁の図表だが、満足度を60%の設定ということだが、この根拠は。
<p>事務局 小松委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合振興計画の目標値の数字を引用している。 ・58.7%から60%への目標というのは適切な目標なのか。 ・令和2、3年度においては、コロナ禍ということもあり低い数値であり、このように設定したところ。一方で、令和4年度調査では過去最高の数値となりこのような状況となっている。
<p>廣瀬委員 事務局 小松委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ頃実施した調査なのか。 ・6月頃であったと記憶している。 ・総合振興計画の目標値としている以上、容易には変えられない。もう一つの目標値は13事業を4か年でおおよそ50事業とするということか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数字だけが一人歩きしないよう、数字ありきの事業計画となることは避けたいと思っている。中身をきちんと検討して進めていきたいという意図で、50事業数であれば目標として現実的な数字であると考えている。
<p>渡辺副会長 廣瀬委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・累計という表現を初めて見る人が理解するのは難しいのでは。 ・うっかり見ていると令和8年度に50事業のようにも見られる。 ・令和3年度の13事業については、延期や中止となった事業も含めての13事業となっている。今回気にしたのは、累計というのはなかなか見られない表現ではあるが、コロナ禍にあって、年度ごとの影響が出た時に、事務局側として累計の数値目標の方が、一喜一憂せず着実に計画を推進できると考えて、累計とさせていただいたところ。委員皆様のご意見をちょうだいしながら、やはり単年度で数値目標があった方が分かり易いということであれば、そこは改めて検討させていただければと思う。

小松委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 13事業の内訳を伺いたい。 ・たとえば、演劇の発声を生かした「いきいき運動教室」、平和の祭典である「平和のつどい」で朗読劇を行うとか、こいのぼりではなくなまずの形をしたのぼりを作る「なまずのぼり」とか、各課で文化芸術の手法を生かして、展開していただいているという状況である。
小松委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた広報誌に掲載されているような事業も含まれるのか。 ・文化芸術を所管しているのが生涯学習課のため、所管課の事業とは原則は別にして、総合政策として文化芸術を活用した事業をここでは想定している。広報誌ベースであれば、演劇事業が該当となる。
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・商工課がなまずの日にイベントをやりたいということで、私が活動している陶芸関係では、なまずの絵を書いたプレートを作ろうということで、話があった。そういったことが、生涯学習課以外でも行われればと思う。
渡辺副会長 廣瀬委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この表現では分かりにくいと思う。 ・説明をいただかないと純然たる文化芸術事業だと思ってしまう。 ・生涯学習課の文化芸術事業を含めると、それなりの数になると思う。計画案の2頁に記載させていただいたように、総合政策として多面的に活用した事業をここでは計上することを想定している。
小松委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・説明いただければわかるが、説明がない現状の案では市民の人に伝わりづらいのではないかな。 ・補足として、計画案の17頁の「文化芸術の多面的な活用」が該当すると思っていただければと思う。確かに、この目標の示し方だけでは分かりにくいと思う。
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・有料のイベント、ターゲットが興味のあるイベントと考えると、色々な形で、考えないといけない。高齢者向け、若い人向け、子ども向け、という考え方を盛り込んでいく必要があるように思う。
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> ・色々なターゲットに対する記載はあるが、障がい者に対する考え方が少ないと思う。私は広報の録音をしている団体に属しているが、先日、障がい福祉課の方と協力して、CDを利用している目の見えない方たちを中心としてぎくばらんに話し合い、利用者がどう思って聞いているのか、どう情報を得ているかを知る機会があった。どのように読んだらより分かっていただけるとか考えて録音しているが、参加者の中に、CDを聞いて図書館に行きましたという方がいた。すごく楽しかったと。そこから話が発展して、音楽もあつたら良いなど。中には素敵な文があれば自分で点字を打ったという人もいた。耳からの情報が少ないと感じ、文化祭の催しなども伝えることが出来れば良いなと思った。参加できるということだけではなく、紙のことで目に触れられない人へ伝えることが

事務局	できれば思う。
廣瀬委員	・たとえば、この計画をわかりやすくまとめたものを朗読するという方法も考えられる。
小松委員	・あっても良いかもしれない。
廣瀬委員	・この計画にもその要素を入れると。
渡辺副会長	・先日、障がい福祉課が体育館で色々なイベントを行っていたが、それにも行けない人もいる。少し努力して、吉川市ではこういうこともやっていると伝え、こんなことには参加できると考える、特に若い方は積極的な方がいるので、そういう方に情報を差し上げたいと思った。
事務局	・施策の展開のところにもう少し盛り込んでも良いだろう。
廣瀬委員	・事業への参加だけではなく、その前の情報発信についても配慮していきますという文言を入れるということによろしいか。また、事例も交えた方が良いかなとも思った。先ほど言っていた総合政策として取り組んだ事例も具体例を入れられればと思う。
小松委員	・先ほど小松委員がおっしゃったように、総合政策の部分は事例がないと分かりにくいと感じる。
廣瀬委員	・総合政策という意味も漠然としてしまっている、基本的な方針からきているということを示す必要がある。
事務局	・普通の人には音楽でコンサートを多く行ったなどと思ってしまうのではないか。
高田会長	・19頁の進行管理と評価について、中身を厚くして、実際の事業内容を示すことではどうか。また、延期・中止となった事業も、そこに至るまでの過程があるので、掲載したいと考えるがいかがか。
事務局	・そのようにするのであれば入れた方が良いでしょう。
高田会長	・あとは累計という表現方法についてだが、良い方法はあるだろうか。たとえば、平均という表現ではおかしいか。あとは年度ごとの目標値を作り、最終的な到達目標を併記するような考えもどうか。
小松委員	・イメージがなかなか難しい。見える形がしっかりしていれば良いが。
高田会長	・数値目標があっても、目論見がないと難しい。こうすればこうなるといった、何らかの施策が必要である。コロナのような状況により達成できなくなることは仕方がないと思う。コロナであることをなしに、何ができるか。ど真ん中の文化芸術施策としてではなくて、まちづくり全体の中で、文化芸術を活用した「事業」ではなく「施策」の方が良い表現では。
小松委員	・目標になると数値目標になってしまう、難しい。
事務局	・事業というと、数字だけ求めているように見える。施策にして、施策に

<p>事務局 小松委員</p>	<p>事業がいくつかぶら下がっている。施策だったら打ち出せるのでは。先ほどの廣瀬委員のご意見の、障がい者に対する活動の機会ではなく、情報へのアクセスをもっと良くするという施策を打ち出して、視覚障がいだけではなく、聴覚の方も含め、施策くらいの方が良いのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組という表現ではどうか。 ・何をもってカウントするのかと聞かれたときに、答えられるようにしておけば良いと思う。
<p>事務局 廣瀬委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カウントとして、計画案に書いてある施策にいくつ取り組んだではどうか。18施策あるので、例えば令和8年度に18施策すべてに取り組むことを目標とするのはどうか。あとは、目標を一つにして、市民意識調査の指標だけにするというのも案として考えられる。その他の部分については、レポート形式でまとめさせてもらい、分かり易いものだけを数値目標として残し、分かりにくいものは文章とするのも一つのやり方かと思う。 ・レポート形式にした方が、この総合政策としての事業については、説明になるから、見た目には分かり易くなると思う。この表を見ても分かりづらい。
<p>小松委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画というと、きれいなことが書いてあるが、それを具体的にどう4年間で進めていくか。それがないと、どこまで達成できたのか分かりづらい。
<p>高田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やり切るということではなく、具現化することが重要なのではと考える。
<p>小松委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・18頁にある推進体制のところ、審議会が進行管理することになっている。この審議会がずっと残り、そこを見ていくということで良いか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小松委員のおっしゃるとおり、この審議会、こういうことをやりましたということを報告させていただき、様々なご意見をいただき、毎年ブラッシュアップされていくようなことを考えている。
<p>小松委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会が管理するが、市民にも伝えることが重要なので、その結果を市民に公開した方が良いでしょう。
<p>高田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの目標があり、それを具現化するためにどういうことをした、ここまでは良かったが、ここは問題が残っている。それをまとめ上げることによって、先ほど事務局が言っていたブラッシュアップに繋がっていくだろう。目標は目標で出しておいて、やり切るではなく、その目標に対してどう意見交換含めて展開していくか、これをまとめ上げるのが一つの仕事になってくるかと思う。
<p>渡辺副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・18頁はきれいにまとまっているが、現実的な推進者は誰か。そういう

	<p>人がいれば、たとえば商店街でイベントをやると言って、そこに音楽など色々な要素を入れたらどうかなど、アイデアを出せると思う。吉川市在住のアーティストがどれだけいて、その方たちが、商店街に行って関わることでより広がり生まれるようになってもらいたい。審議会があっても、実際に動く人ではない。市長のような、強力な人が何人いるか。さきほどおっしゃっていた新しく吉川市に来た人たちを取り込むには、昔はお祭りなどのコミュニティの基盤を強くする催しがあったが、近年はお祭りもなくなってきた。芸術劇場では近藤良平氏に新しい時代に合った盆踊りを作ってもらったが、そういった仕掛けを作る必要がある。そういう推進をする人がどれくらいいるのかなと。</p>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川ではジャズナイトやっていて、そこは行政と商工会が一緒になってやっている。たとえば、市民参加推進課でやっている市民参画審議会のようにテーマごとに個別に担当者が来て、1課ごとに報告してもらう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市長は以前より全ての事業に文化芸術という視点で見えてみてと言っている。この計画策定の時にも庁内連絡会議を作って、そういった視点で、事業を進めていこうとしてきており、この後もそういった庁内会議をしっかりと組織して、その中で情報交換しながら、意見交換をしていく中で、その市民の人たちと協働してできるようなものができればと思う。あわせてこの進行管理をしていく中で、毎年報告が出たら、必要に応じて文化連盟さんや社会教育委員会にしっかりとおろしていき、皆さんの意見を聞いて、市民にも伝えていくということができればと思う。
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった中で、テーマが決まれば、適任をあてはめることができる。自治会絡みならば市民参加推進課にまとめてもらうとか。イオンタウンのイベント関係では、そういった地元の事業者とコラボすることもできる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加推進課がもっている市民シンクタンクは、自分はやらないが、こういうアイデアだったら、という人が集まっており、これとこれがコラボできるとアイデアを出してもらい、担当におろしていくこともできる。生涯学習課だけでできることではないので、横の連携を活用して進めていく必要がある。
渡辺副会長 小松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・巻き込む人が欲しい。 ・そういう進め方も具体的に書いておいてはどうか。シンクタンクでアイデアを出して、実際に動かすときに、携わる人をどう動かすか、協働してとあるが、協働を具体的に書くことでやる気があると思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員皆さんのご意見を伺い、文化芸術という柱があるが、結局はまちづくりであると考え。そのまちづくりはすでに各担当で専門的なことを

高田会長	<p>やっている中で、文化芸術という柱を入れて、何か取り込めるものがないかと突き詰め、各課で関わっている市民の方を巻き込めればと思う。もう少し庁内で連携できるようなことを表現して、各担当事業を巻き込めるようなことを表現できれば良いなと思う。事務局の方で検討させていただき、提示させていただきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補足として、私は市民参加推進課のコミュニティ協議会という活動をしているが、子どもたちを対象に魚つかみ取り大会という事業を行っている。コロナで中止となっているが、話し合いの中での話題に、この金魚の魚つかみ取り大会をやってきているのは、吉川市独自の一つの文化ではないかと。このようなことも一つの文化と捉えるのであれば、そういった企画も面白いのではと思う。
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・金魚ではできないが、文化として残していくなら、大きい魚であればどう三枚におろすのかとか、つかみ取りだけでは文化として弱いので、金魚を飼って、飼育することによって情操教育にも繋がり、写真にとってみようとか、絵にかいてみようとか、つかみ取りだけではなく、どういう風に生かし、転がしていくかまであれば文化に繋がっていくのかなと思う。
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・私もそういった中で、文化と考えたときに、子ども、高齢者の居場所づくりと考え、居場所づくりができた時に一つの文化になるのではないかなと思う。吉川ならではの夢中になれるものを、一つ一つ大事にしていきたい。それで終わらせてはいけないと思うので、それを一つのきっかけとして、先ほどの目標の具現化の一つに繋がればと思う。
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに、一つ文化芸術のワンポイントがそこに加わればと思う。その視点が持てるかどうかであろう。面白いと思う。市役所の皆さんが一度学習して、その方が写真で並べてみるのはどうかとか、そのアイデアを誰か出してあげなければ、見過ごしてしまう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的方針を作る時には、何度も庁内で勉強会を行ったが、文化芸術は難しいなど。
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術を難しく考えず、先ほどの例はすごく良い例だと思う。
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術を難しいものと思う必要はないと思う。
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティストの方などがいて、そこにひと手間加えるだけで面白いものになる。そこをぜひ検討いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・実務的な話になってしまうが、議論いただいた内容は推進体制に関わってくると思う。具体的な表現は出てこないが、18頁の①計画の周知だけではなく、できあがったものを市民の皆さんに伝えるところまでがここに入ってくると思う。③の計画の推進については、協働して推進して

	<p>いきますというだけではなく、庁内できちんと体制を作って、進めていくということを盛り込む、そのようなことを加えてこの頁を修正したいと思う。続けて19頁のところの進行管理と評価に関しては、一つは、総合政策としての事業数を表現しきることはできないと思うので、であれば、この目標値は市民意識調査のみとして、市民の方が分かるように文章化し、報告していく形であれば伝わるのかなと思うが、いかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまで基本方針については、取組事業を確認していたが、何をしたかの周知は弱かったと思う。レポートのような形で審議会に諮りながら、それをさらに周知して、知っていただく、そういった形で整理できたらと思う。
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> • 良いと思う。事業数などの目標は、普通の計画では最後ではなく、それぞれの施策の展開で表現される場所。それぞれの施策に合った数値目標を最後に一個まとめてというのは違和感がある。満足度の目標に関しては、どう整理するか。
事務局 小松委員	<ul style="list-style-type: none"> • 総合振興計画策定時の数値との整合というところで整理したいと思う。 • 注意書きで、なぜ60なのかは示した方が良さだろう。あとは、もう一つ目標をつくる方法もある。総合振興計画では60だが、ここまで達成したのでもう一歩行っても良いかもしれません。65とか。目標値に関しては事務局にお任せします。
高田会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> • テーマとして、議論は十分か。 • いただきたいご意見を多々いただくことができた。まとめさせていただきたいと思う。
高田会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 様々なご意見感謝する。今回は教育委員会からの諮問ということで、審議させていただいた。答申について、事務局から意見はあるか。 • 今後の流れも加えて説明する。今年度末までには完成・公表と考えており、1月にはパブリックコメントを実施、それも踏まえて3月に教育委員会に答申とさせていただきたいと思う。そのため答申については会長と調整しての提出と考えているがよろしいか。
委員一同 高田会長	<ul style="list-style-type: none"> • 良い。 • 最終調整はわたしと事務局で行い、答申を教育委員会に行いたいと思う。議事については以上となるので事務局に進行を返す。
事務局	<p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> • パブリックコメント後に、反映したものを委員の皆さまにも配布して、ご確認いただきたいと考える。 • 来年度も2回の開催を予定しており、令和5年度以降の計画ではあるが、

<p>小松委員 事務局</p>	<p>1回目では参考に令和4年度実績を報告し、2回目以降は年度途中の報告と、文化芸術事業の報告を行いたいと思っている。来年度も引き続き様々なご助言をお願いしたい。その他委員の皆さまから何かあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題にあがらなかった、内容ではなく細かな表現のところを後日ご連絡させていただきたい。よろしいか。 ・お願いする。 <p>6 閉会 副会長よりあいさつ</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和5年1月25日</p> <p>署名委員 渡辺 弘 (自署) 署名委員 小松 弥生 (自署)</p>	